

「復興農学会」事務局会議（第20回）議事録

文責 石井秀樹（福島大学）

日時 2020年10月19日（月）15時00分~16時20分

方法 ZOOMによるWeb会議

出席者 溝口 勝（東京大学）、大川 泰一郎（東京農工大学）、石井 秀樹（福島大学）、横山 正（同）、
松島 武司（福島イノベ機構）
（敬称略）

議事録

1. 学会と学会誌の英文名について

石井より、事務局に寄せられたタイトルを共有した。また参加者からも案が提示された。

小倉案：

復興農学会 Association of Agricultural Science for Reconstruction and Resoration

または Society of Agricultural Science for Reconstruction and Resoration

復興農学会誌 Journal of Agricultural Science for Reconstruction and Restoration

（頭をとると JASRAR?）

「復興」に関する単語についてちょっと検索して比較してみました。reconstruct は「損傷を受けたものを再度機能させる」という意味だけでなく、「これまでのシステムを見直し再構築する」という意味もあるようです。「日本をより良い国にしていこう、東北を蘇らせよう」という意志、未来への希望を意味するのは、revocer よりもむしろ reconstruct だと思います。また、reconstruct は主に物理的な復興を意味するのに対し、restore は社会システム、モラルまたは精神的な復興を意味するようです。したがって、reconstruction と restoration を両方入れるのが良いのではないかと考えました。

溝口案：

Society of Reconstruction Agriculture (SRA)

☞ 復興農業学会,復興農業学会 (DeepL, Google 翻訳)

Reconstruction Agriculture Society (RAS)

☞ 復興農業協会,復興農業社会

Reconstruction Agricultural Society

☞ 復興農学会,復興農業社会

横山案：

復興農学会誌 Science for Reconstructions from Natural and Man-made Disasters in Agriculture

石井案：

復興農学会 Society of Agricultural Science for Revitalization.

論点① 何のワードをもって復興を表現するか？

Reconstruction/ Resoration/ Revitalization

論点② 何のワードをもって学会を表現するか？

Association/ Society

※Association だとリジッドな組織体を連想させる。Societyの方が、地域を交えた実践コミュニティのニュアンスも表現できそう（溝口、石井）

2. 学会誌の特集について

石井より、被災14自治体の首長へのご寄稿について、「復興農学会としてのインタビュー・対談記事」としてまとめる事の提案をした。理由は、①復興農学会の認知が不十分な中でのご寄稿も難しい点、②インタビューを通じて復興農学会を自治体にPRするとともに、連携関係を積極的に

持つため、の2点である。想定自治体としては、10月27日に新規就任される飯舘村・杉岡誠次期村長を提案した。溝口委員からは「時宜を得ている、日程が合えば参加する」とのご意見を頂いた。

事務局より目次案を提示し、別の自治体首長への訪問是非も含めて、次回事務局会議で決定としたい。

3. 会議の持ち方について

後期学期がはじまり、月曜15時の参加が難しい先生も多く、会合の持ち方について、改めて検討議案とすることが事務局から提案され、了承された。

以上

今後の予定

- ・事務局会議（第21回） 2020年10月26日（月）15時00分～16時00分 ZoomによるWeb会議
- ・「福島フォーラム」 2020年11月9日（月）16時30分より 福島大学食農学類みらいホール・Web
話題提供：尾形 慎 准教授
- ・「福島フォーラム」 2020年12月21日（月）16時30分より 福島大学食農学類みらいホール・
Web 話題提供：二瓶 直登 准教授